

# 春 桜 入学

4月8日(金)、新居浜市の各小学校で入学式が行われた。泉川小学校にも、かなり早い時間から保護者に手をひかれた新生が桜咲く校門をくぐる。

まずは受付へ。中庭に面した新生の教室の前には、チューリップや色とりどりの花が咲きそろそろ。1年まつ組、たけ組、うめ組の各教室の入口では、担当の先生と6年生女子が2人、笑顔で迎えてくれる。そこには大きな用紙にひらがなで書かれた学級名簿が貼り出され、よく見るとアイウエオ順で男女の区別がない。当然と言えばそれまでだが、久しぶりに学校を訪れる者にとって新鮮な空気を感じる。受け付けのあと、6年生の案内で教室に入り自分の席に着く。

講堂では、在校生を代表して6年生の3クラスがすでに待機。そこへ音楽に合わせて、温かい拍手のなかを新生が入場する。入学式に先立って、全員が起立。東日本大震災の犠牲者に対する1分間の黙とうをささげた。いよいよ入学児童の発表があり、担任の先生が呼名すると一人ひとりが元気よく「ハイ！」の返事と同時に起立する。

校長先生は式辞のなかで『よいこのおねがい』として、『よ』はよく聞きよく見る、『い』は命を大切にする、『こ』は根気よく。この『よいこ』を守って楽しい毎日にしましょう」と話された。このあと児童代表の酒井海羽さんからのお祝いの言葉があった。

教室にもどった新生の机の上には、黄色い帽子と大きな紙袋が見える。保護者はそれぞれ児童の横にきて、先生の説明にあわせながら紙袋の中の教科書や書類を確認する作業がしばらく続いた。一段落した後、先生は児童たちに向けて「みなさん、わからないことがあってもいいんです。もし、わからないことがあったら、お姉さんやお兄さんに聞いてください」と語りかけ、保護者には「早寝、早起き、朝ごはん、が大事です。そして、朝すっきりのウンチも大事なんです。そのためには、朝、しっかり食べることです。」と具体的にアドバイス。

新生83名の第1日は、このようにして始まった。

## 就任にあたって

瀬戸会館 館長 山本光博  
このたびの異動で、館長として着任いたしました。どうかよろしくお願い申し上げます。



四月とは言え、ことのほか朝夕の冷え込みが身にしみる毎日でしたが、四国連山の白く輝く峰々を背景にして、瀬戸会館のお隣、瀬戸児童館の桜も見事に咲きました。着任早々、夜風のあった翌朝、花吹雪の中、幼稚園のバスを待つ子どもたちが、てんでに、慈しむように花びらを手のひらにのせて遊んでいます。たわむれる子どもたちの笑顔がなんとも愛らしい。“さいた さいた チューリップの花が ならんだ ならんだ あか しろ きいろ どの花みても きれいだな” その子なりの花への想いを巡らしながらはしゃぐ子ら。しぐさや表情は違っても、どの子もそれぞれにあふれる笑顔が素晴らしい。思わず“どのはなみても きれいだな”、心の中で大きく口ずさんだ。冷たい風の朝、心まで暖かくなりました。

微力ではありますが、先人のご努力を受け継ぎながら、今後とも、一層、瀬戸会館が地域の皆様の心のよりどころとして、「互いに交流し、高めあう」場所となりますよう、皆様のご支援をいただきながら、職員一同励んでまいりたいと思います。どうかよろしくお願い申し上げます。



瀬戸会館だより  
平成23年5月号  
新居浜市瀬戸会館  
〒792-0821  
新居浜市瀬戸町7-30  
E-mail  
seto@city.niihama.ehime.jp  
TEL 0897-41-5859  
(FAX 兼用)

5月公演  
回轉木馬  
おはなし会  
5月18日予定  
10:30~11:00  
瀬戸児童館



左 教科書など親子で点検



左 上 児童代表からお祝いの言葉



# 人権あらかると

## おくりびと

松村 智広

そういえば、2009年2月に発表された第81回アカデミー賞<sup>のうかんし</sup>で、納棺師という職業をとおして、死と命の尊厳をテーマにした映画『おくりびと』が日本映画では初めて外国語映画賞を獲得した。「おくりびと」を英語でなんと訳されるのかが気になっていたら、「ディパーチャーズ」という表現で発表された。英語の「ディパーチャー」は、「出発・旅立ち」という意味で使われることが多いが、古語で「死（デス）」という意味もある。確かに、葬式は「天国への旅立ち」であるから、人生の卒業式であるともいえる。

私はこの映画を受賞の前に観たが、印象に残っている一つは、劇中にたびたび登場してきた食事シーンである。それらの食材はすべて生き物だった。山崎努扮する葬儀屋社長が社員役の本木雅弘にこう言う。「死ねないなら食べることだ。同じ食べるならうまいものを」「困ったことに、うまいんだな、これが」と。動物は動物を食べて生きながらえている。感謝しながら食べることで生き物の死を有益なものにする。人間は生き物の“死”の上にしか“生”をまっとうできない。

気になったもう一つは、死に対するケガレ意識である。納棺師の職についた主人公は、妻に面と向かって「汚らわしい」と言われ、愕然とする。また、納棺師という仕事に携わる主人公たちは依頼人から「人の死で飯を食っているくせに」とののしられる。しかし、そう吐いた男も納棺のすべてがおわったあとは心から「ありがとう」と言って涙を流す。目の前にいる自分の大事な人の亡骸<sup>なきがら</sup>を、身内よりも丁重に扱い、尊敬の念をもって向かい合っている姿を見ると、ケガレという曖昧でわけのわからない屁理屈などはどこかへ飛んでいってしまう。荘厳な納棺の儀式のなかで、故人を敬い、そして見送る人びとの悲しみを納めるからこそ、その人の死を乗り越えることができるのではないだろうか。実は、この映画の本当のテーマは「生きる」であると思えてならない。

まつむら ともひろ

財団法人 反差別・人権研究所みえ主任研究員

『へこたれへん～差別はきつとなくせる～』（解放出版社）より



新居浜市教育委員会後援  
会場 マイントピア列子

平成二十三年五月三日  
五月六日

瓢箪作品展  
沼田浩夫グループ

ゆめじゆく会

## 「人権のつどい日」にひろう

4月11日（月）の人権のつどいではビデオ『未来への虹』を視聴して、その感想をもとに意見を出し合った。このビデオはハンセン病元患者の平沢保治さんをモデルにして書かれた本『ぼくのおじさんはハンセン病』をもとにアニメーション化された作品。

物語は、小学生2人が国立療養所多磨全生園にいるおじさんを訪ねるかたちで展開される。画面を通して、いまだにハンセン病に対する無理解、それにもとづく偏見や差別があるため、病気が完治していても故郷に帰れないこと、身内に迷惑が及ぶので本名を名乗れないことなどの現実を知る。そして「ふるさとは地球で一番遠いところなんだ」とか、納骨堂が出てくる場面での「死んでもここから出られない」ということばが胸を突く。

プロミンというハンセン病が完治する薬が登場しても、ハンセン病の菌は伝染力が極めて弱いことがわかっていても、なぜ長い間放置されてきたのか。これまでの国の施策が間違いだったと分かった時点でも、国は動かない、社会も動かない。次第につどいの雰囲気は正しい知識や情報が存在しても、なぜ、それが現状を変えるパワーにならないのか、という問題意識を持つに至る。

そして参加者の一人が、厚生労働省の『ハンセン病の向こう側』というパンフレットの「学習ポイント」の欄にある文章、「ハンセン病問題を解決するカギは、君たちが握っている」を取り上げて、「この『君たち』というのは、『私たち』ですよ」とポツリと話されたのが印象に残った。

次回は5月11日、「日常の人権Ⅱ」の視聴と話し合いです。普段着で人権について学びませんか。みなさん、御参加下さい。

## 今月の人権・同和教育関係行事予定

- |     |   |                          |                  |
|-----|---|--------------------------|------------------|
| 9日  | 月 | 就学前委員会（第1回）              | 市庁舎              |
| 10日 | 火 | 愛媛県企業連合会第40回定期総会         | 松山市              |
|     |   | 愛媛県人権教育協議会第44回定期総会       | 松山市              |
| 14日 | 土 | 大島教育集会所運営委員会             | 大島教育集会所          |
| 17日 | 火 | 東予地区人権・同和教育研究協議会運営委員会    | 四国中央市            |
| 18日 | 水 | 行政部会（第1回）<br>高等学校部会（第2回） | 市庁舎<br>新居浜工業高等学校 |
| 23日 | 月 | 小・中学校合同部会（第2回）           | 瀬戸会館             |
| 24日 | 火 | 社会教育担当者人権・同和教育研究協議会      | 県庁               |
| 26日 | 木 | 組織・企業部会（第1回）             | 市庁舎              |
| 27日 | 金 | 就学前部会（第1回）               | 市庁舎              |